



▲「炎の手前からほうきで掃くように」と指導されながら消火器の使い方を体験。

秋の火災予防運動期間にあわせて11月1日の早朝に、強坂地区の住民や周辺の消防団が参加して「強坂地区消防総合訓練」が行われました。発煙筒に火を付けると「火事だー、火事だー」と大声で火事ぶれ。聞きつけた住民が119番通報を行ったあと、駆けつけた付近住民によるバケツリレーでの初期消火訓練を行いました。その後、強坂地区周辺の消防団が出勤しての消火活動が行われ、参加者たちは本番さながらの真剣な表情で訓練に取り組んでいました。

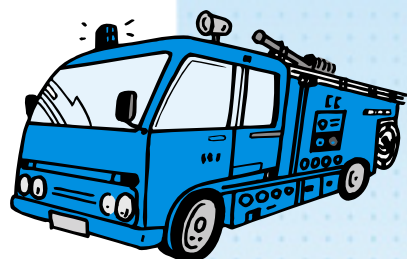
消防訓練終了後、住民が八峰消防署員の指導のもと「消火器の正しい使い方」を体験する訓練も行われ、防災意識を高めました。訓練に駆けつけた加藤町長が「町内では今年に入ってから火災が発生しておりません。無火災で新年を迎えるように心がけましょう。」と挨拶したほか、消防署からは「火災による逃げ遅れを防ぐため、早めに火災報知器の設置をお願いします。」と呼びかけがありました。

# 秋の消防総合訓練 強坂

地域住民と消防団が連携して初期消火訓練



▲消防団による消火訓練も行いました。



付近住民によるバケツリレー。初期消火は地域の連携が大切。



# 祝 文化勲章受章

秋田県名誉県民  
八峰町名誉町民

日沼頼夫博士



(写真: 秋田魁新報社提供)

八峰町名誉町民の日沼頼夫博士が文化勲章を受章しました。本県出身者では、54年ぶり2人目の快挙です。

日沼博士は京都大学名誉教授としてご活躍され、長年続けてこられた研究により、成人T細胞白血病の病原ウイルスを発見し、人間のがんがウイルスによっても起きることを世界で初めて実証し、今日のがんウイルスの研究に大きく貢献されました。

現在、日沼博士は京都に住んでおりますが、生まれ育った八峰町の海や山の自然環境をこよなく愛し、帰郷の際には母校で児童を激励するなど、誰よりもふるさと八峰町を愛しておられます。

この度の受章は、八峰町民に大きな誇りと夢を与えて頂きました。今後、益々のご活躍を期待しております。

## 彼は同級生、わが町の誇りです。

能代工業時代の同級生 堀内常雄さん(浜田)のコメント



能代工業に通っていた学生時代は、常に彼と一緒にいた。彼の席はいつも私の前。実習の時も同じ班。身長も私とかわらなかつたので軍事教練の整列も私の前でした。

通学も同じ列車だったし。ガリ勉というタイプではなかったけど成績はよかつたなあ。彼が秋田県名誉県民に選ばれた頃、新聞社から「日沼さんがノーベル賞候補になっているので、在学中のことを知らせてほしい。」と連絡があつた。期待していたが残念ながら受賞とはならなかつた。けれども、今回文化勲章を受章し、彼の今までの努力が実を結んだなという想いです。彼は同級生、わが町の誇りです。

### 日沼博士の主な経歴

- 大正14年 旧八森村茂浦で生まれる
- 昭和17年 能代工業学校卒業
- 25年 東北大学医学部卒業
- 29年 東北大学大学院修了  
同大医学部助手
- 32年 医学博士
- 33年 米フィラデルフィア小児病院  
ウイルス研究所研究員
- 35年 東北大学医学部助教授
- 40年 米ロズウェルパーク記念研究所  
客員研究員
- 43年 東北大学歯学部教授
- 46年 熊本大学医学部教授
- 55年 京大ウイルス研究所教授  
高松宮妃癌研究基金学術賞
- 58年 野口英世記念医学賞  
武田医学賞
- 59年 ベーリング・北里賞
- 60年 ハマー賞
- 61年 文化功労者
- 62年 京大ウイルス研究所長
- 63年 京大名誉教授  
シオノギ医学科学研究所長
- 平成元年 秋田県名誉県民  
旧八森町名誉町民
- 18年 八峰町名誉町民